

# モニタリング結果報告書 (平成27年度)

## 1. 施設概要

施設名	神奈川県立神奈川近代文学館		
所在地	横浜市中区山手町110		
サイトURL	<a href="http://www.kanabun.or.jp">http://www.kanabun.or.jp</a>		
根拠条例	神奈川県立神奈川近代文学館条例		
設置目的(設置時期)	近代文学に係る図書及びその著者の遺品等を収集し、整理保存し、及び展示し、並びに近代文学に係る図書を閲覧に供するとともに、併せて県民に文化活動の場を提供するため。(昭和59年4月)		
指定管理者名	公益財団法人神奈川文学振興会		
指定期間	平成23年4月1日～平成28年3月31日	施設所管課	文化課

## 2. 総合的な評価

総合的な評価の理由と今後の対応	
<p>平成27年度は、年間利用者数も大きく伸び、利用者満足度も高く、また収支状況も良好だったため、3項目評価はS評価となった。若年層向けの事業の実施をはじめ、指定管理者による展示やイベントの工夫が入場者数の増加につながった。今後も多様な分野の展示やイベントなど、多くの人が近代文学及び文学館に興味を持つきっかけとなるような取組の充実が期待される。</p>	
<p>&lt;各項目の詳細説明&gt;</p> <p>◆管理運営等の状況 年間展示室入館者数は、昨年度の46,255人にはわずかに及ばなかったものの、46,205人と歴代4位となる好成績をあげた。4～5月の「谷崎潤一郎展」では、昨年度の「太宰治展」に引き続きコミック「文豪ストレイドックス」とのコラボレーション企画を実施し、若年層の利用者数が増えたことにより、12,398人が来館した。また、7～9月の「佐野洋子展」では中高年層の入場者数を大きく伸ばし、1展覧会あたりの展示入場者数として歴代6位となる15,197人を記録した。</p> <p>◆利用状況 「谷崎潤一郎展」、「佐野洋子展」の入場者数が大きく伸びた結果、展示室・閲覧室・会議室の利用者数は71,521人と目標達成率119.2%となり、S評価となった。会議室利用者数は展覧会関連行事や県高文連との共催行事等の増加により会議室貸出回数が減ったため、昨年度20,494人から18,963人に減少し、前年度比は92.5%となった。</p> <p>◆利用者の満足度 10～11月の「柳田國男展」(入場者数8,378人)の実施期間に来館者とホームページ閲覧者を対象に行い、上位2段階の回答割合が95.8%となったため、S評価となった。回答数は、来館者アンケートでは昨年度の555件から405件と減少、Webアンケートでは昨年度と同じく19件だった。昨年度のアンケート実施時の須賀展は入場者数が13,391人であったため、来館者アンケートは実施時期の展覧会の入場者数の影響が大きいと言える。Webアンケートは回答数の少なさが課題であるが、メルマガ会員への周知などの工夫により増加の努力を続けている。</p> <p>◆収支状況 入館者数が大きく伸びたため、利用料金の収入増となった。昨年度と比較すると、講演会受講料や特別展図録販売収入は伸びなかったが、収支比率は100%であり、A評価となった。</p> <p>◆苦情・要望等 ビデオの音量や説明の文字の大きさについて意見が寄せられたが、適切な対処が行われた。要望の多かったトイレのバリアフリー化については、平成28年度に実施予定である。また、平成26、27年度と2年続けて実施したコミックとのコラボレーション企画については、さらなる期待の声が寄せられた。</p> <p>◆事故・不祥事等 12月4日に火災警報の誤報が発生した。原因は、防災盤の劣化であり、指定管理者が応急処置を行い、その後誤報は発生していない。交換部品が入手不可な状態であるため、計画修繕工事を優先的に実施できるよう依頼している。</p> <p>◆労働環境の確保に係る取組状況 県による監査、労働基準監督署からの指摘事項はない。</p> <p>◆その他 平成27年度の3項目評価についてはS評価とした。</p>	

3項目評価	S : 極めて良好 A : 良好 B : 一部改善が必要 C : 抜本的な改善が必要 ※3項目評価とは、3つの項目(利用状況、利用者の満足度、収支状況)の評価結果をもとに行う評価をいう
S	

### 3. 月例・随時モニタリング実施状況の確認

月例業務報告 確認	遅滞・特記事項があった月	特記事項または遅滞があった場合はその理由
	なし	
現場確認	実施日	特記すべき事項があった場合はその内容
	月2回程度	
随時モニタリングにおける指 導・改善勧告等の有無	有・無	指導・改善勧告等の内容

### 4. 管理運営等の状況

[ 指定管理業務 ]

事業計画の提案内容	実施状況等	実施状況に関わるコメント
<p>・より多くの来館者を獲得するために、様々なニーズに応じた展示を企画、開催する。 (集客を目指す展示、独創性のある展示、外に広がる展示など)</p>	<p>4～5月 特別展「谷崎潤一郎展」入場者数 12,398人 5～7月 企画展「中勘助展」常設展「文学の森へ 第1部」併設 入場者数 4,093人 7～9月 企画展「佐野洋子展」入場者数 15,197人 10～11月 特別展「柳田國男展」入場者数 8,378人 11～1月 スポット展示・星の王子さま 常設展「文学の森へ 第2部」併設 入場者数 1,809人 1～3月 企画展・収蔵コレクション展15「富士川英郎展」常設展「文学の森へ 第3部」併設 入場者数 1,844人 3月 特別展「夏日漱石展」 2,486人</p>	<p>年間展示室入館者は46,205人と前年度の46,255人にわずかに及ばなかったものの、「谷崎潤一郎展」「佐野洋子展」の好評により好成績をあげた。「谷崎潤一郎展」では、今年の「太宰治展」に引き続きコミックとのコラボレーション企画を実施し若年層へのさらなる浸透に努めた。</p>
<p>・館所蔵、新収蔵資料を柱に構成した展覧会も積極的に開催する。</p>	<p>1月～3月には、館収蔵コレクションの富士川英郎資料を活用して鎌倉ゆかりの文壇学者・富士川英郎の企画展を開催し、その評論・執筆活動を顕彰した。また11月～1月には2014年に寄贈を受けた「星の王子さま」の翻訳本を中心にしたスポット展示を行った。</p>	
<p>・特別展や企画展と連携した講演会、朗読会、講座、映画会などの企画を開催し、利用者のニーズに応える。</p>	<p>(講演会、講座、朗読会など) 4～5月 谷崎展記念講演会 2回 同 展記念映画会 4回 同 展記念講座 1回 同 展記念朗読会 1回 NHKFM公開録音 1回 同展ギャラリートーク (7回) 平和セミナー 1回 5～7月 中勘助展記念講演会 2回 同 展記念朗読会 1回 同展ギャラリートーク (3回) 7～9月 佐野洋子展記念講演会等 2回 同 展記念朗読会 1回 朗読コンサート 1回 かなぶんキッズクラブ (映画会・紙芝居、絵本の読み聞かせ) 4回 同展ギャラリートーク (4回) 戦後70年記念イベント 映画上映会 2回 講演会 1回 DVD上映会 1回 10～11月 柳田國男展記念講演会 3回 同 展記念朗読会 2回 同展ギャラリートーク (7回) 他 「文字・活字文化の日」記念行事 (ギャラリートーク、バックヤード見学等) かなぶん連句会 1回 12～2月 かなぶん寄席 1回 文芸朗読会 1回 文芸映画会 2回 2～3月 富士川英郎展記念対談 1回 同展ギャラリートーク (4回) かなぶんキッズクラブ (映画会・紙芝居) 2回</p>	

・インターネットによる所蔵資料情報の公開を進める。	・近代文学館のホームページで実施 ホームページアクセス件数 211,693件 (うち蔵書アクセス件数 62,095件) ・前年度に公開した「夏目漱石デジタル文学館」のコンテンツ追加や各種ブラウザへの対応改善など機能強化、拡充を行い、資料情報の積極的な公開を行った。	谷崎展実施時期にホームページをリニューアルし、スマートフォンやタブレットにも対応できるようになった。合わせて、昨年度に引き続き行ったコミックとのコラボレーション企画が若年層に好評を得たこともあり、昨年度のアクセス数175,859件を大きく上回った。
・専門館として文学のレファレンスにきめ細かく対応する。 〔参考〕 レファレンス：文学に関する情報や資料の各種問合せに対し、仲介的な立場から援助するサービス。利用案内、資料提供なども含む。専門的な質問も多く、公共図書館等他施設からの照会もある。	レファレンス件数 264件	

[ 参考：自主事業 ]

事業計画の提案内容	実施状況等

5. 利用状況

評価	《評価の目安》 目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上 A：100%以上～110%未満 B：85%以上～100%未満 C：85%未満 目標値を設定していない場合は対前年度比。 社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目標値」欄には代わりに定員数等を記載してください。
S	

	前々年度	前年度	平成27年度
利用者数※	61,526	73,379	71,521
対前年度比		119.3%	97.5%
目標値	58,400	60,000	60,000
目標達成率	105.4%	122.3%	119.2%

目標値の設定根拠： 経営改善目標

利用者数の算出方法（対象）： 観覧券の枚数、受付係員がカウント(展示観覧者数)+閲覧カウンター職員がカウント(閲覧室利用者数)+利用申請者が予約システムに入力した人数(会議室利用者数)

[ 参考：最大利用可能人数/年 ]

	ホール	中会議室	小会議室	和室		合計
定員	220	60	18	20		
年間利用可能日数	315	315	315	315		
最大人数※	69,300	18,900	5,670	6,300	0	100,170
稼働率	11%	34%	51%	35%	%	

※ 原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

6. 利用者の満足度

評価	<評価の目安> 「満足」（上位二段階の評価）と答えた割合が、S：90%以上 A：70%以上～90%未満 B：50%以上～70%未満 C：50%未満 ※評価は施設としての総合的評価の「満足」回答割合で行う
S	

満足度調査の実施内容	協定に定めた調査内容	実施結果と分析
	(1) 簡易アンケート 管理施設の窓口で常時用紙を備え、利用者に記入していただくなど、簡便な方法で随時実施するアンケート (2) 詳細アンケート アンケート用紙を利用者に一斉に送付し、回収・分析するなど、詳細な内容で定期的に実施するアンケート	今秋の「柳田國男展」は8,378人と昨秋の「須賀敦子展」（13,391人）に入場者数では及ばなかったが、学生及び高校生以下の展覧会入場者割合は4.3%から6.7%へと2.4ポイント上昇した。来館者アンケートの回答者でも、30歳代までの割合が昨年の8.5%から26.4%と増え柳田國男が幅広い年代の関心を集めていることが伺える。男女比は「須賀敦子展」では女性が7割（71.5%）を占めたのに対し、「柳田國男展」では男性が52.8%と半数を超えている。これは、特別展としては2012年の島崎藤村展（男性53.1%）と同様の結果である。「須賀敦子展」では、来館者アンケート回答の半数以上（56%）が県外在住であったが、「柳田國男展」では県内からの来館者中心（63.3%）の傾向が見られた。例年、特別展開催期間中は、県内からの来館者の割合がおおむね60%前後を推移しており、「柳田國男展」では例年の傾向に回帰したことになる。路線バスでの来館者が7.4%だった昨年に比べ13.6%と多いことも、市内からの来館者の多さを示している。「展示」について、「来館者アンケート」によると「柳田國男展」は、およそ9割の肯定的な評価を得た。「講演会等」の現状評価についても、項目回答者の9割以上の方から「満足」「どちらかといえば満足」との評価を受けた。また、展示内容について「良くなった」の理由として「興味をひかれる特別展のテーマが増えた」という声もあった。

[ 施設としての総合的評価 ]

質問内容 来館者：以下の項目について、どのようにお感じになりましたか。>全体評価  
 web：展示内容等について、どのようにお感じになりましたか。>全般的サービス

実施した調査の配布方法 受付等に配架、HP掲載 回収数/配布数 424 / = #DIV/0!

配布(サンプル)対象 来館者、HP利用者

	満足	どちらか といえば 満足	どちらか といえば 不満	不満	合計	満足、不満に回答があつた 場合はその理由
施設としての総合的 評価の回答数	141	112	9	2	264	[全体評価「満足」の理由として]静かに考えられる時間が採たれていまして、資料が豊富/きれいな/特に問題を感じず好感がもてたから
回答率	53.4%	42.4%	3.4%	0.8%		
前年度の 回答数 (三段階評価)	204	110		1	315	
前年度回答率	64.8%	34.9%		0.3%		
回答率の 対前年度比	82.5%	121.5%		238.6%		

(複数回実施した場合は、平均値を記載。)

[ 参考：職員の対応状況 ]

質問内容 来館者：以下の項目について、どのようにお感じになりましたか。>対応・サービス

実施した調査の配布方法 受付等に配架 回収数/配布数 405 / = #DIV/0!

配布(サンプル)対象 来館者

	満足	どちらか といえば 満足	どちらか といえば 不満	不満	合計	満足、不満に回答があつた 場合はその理由
職員の対応状況の 回答数	123	109	13	3	248	
回答率	49.6%	44.0%	5.2%	1.2%		
前年度の 回答数 (三段階評価)	162	140		3	305	
前年度回答率	53.1%	45.9%		1.0%		
回答率の 対前年度比	93.4%	95.8%		123.0%		

(複数回実施した場合は、平均値を記載。)

[ 参考：その他 ]

--

7. 収支状況

評価	《評価の目安》 収支差額の当初予算額：0円の施設が該当 収入合計／支出合計の比率が S(優良)：105%以上 A(良好)：100%～105%未満 B (概ね計画どおりの収支状況である)：85%～100%未満 C(収支比率に15%を超えるマ イナスが生じている)：85%未満
A	

[ 指定管理業務 ]

(単位:千円)

		収入の状況				収入合計	支出の状況	収支の状況	
		指定管理料	利用料金	その他収入	その他収入の内訳			収支差額	収支比率
前々年度	当初予算	393,302	8,874	6,934	受取利息収入 250 事業収入 6,329 立替金収入 355	409,110	409,110	0	100.00%
	決算	393,302	11,631	11,521	受取利息収入 271 事業収入 7,479 立替金収入 368 雑収入 322 退職給付引当預金 取崩収入 3,081	416,454	416,454	0	100.00%
前年度	当初予算	404,542	8,924	7,104	受取利息収入 270 事業収入 6,379 立替金収入 205 雑収入 250	420,570	420,570	0	100.00%
	決算	404,542	15,435	9,627	受取利息収入 276 事業収入 8,568 立替金収入 227 寄付金収入 220 雑収入 336	429,604	429,604	0	100.00%
27年度	当初予算	404,542	8,974	28,067	受取利息収入 270 事業収入 6,429 立替金収入 155 雑収入 300 退職給付引当預金 取崩収入 20,913	441,583	441,583	0	100.00%
	決算	404,542	14,491	27,948	受取利息収入 205 事業収入 6,420 立替金収入 185 雑収入 225 退職給付引当預金 取崩収入 20,913	446,981	446,972	9	100.00%

※支出に納付金が含まれる場合、その内数

(単位:千円)

27年度 / 前年度 / 前々年度 /

<備考>

[ 参考：県が支出した修繕工事費 ]

※県が支出する計画修繕工事・各所管繕工事等に係る修繕費

時期(年・月)	金額(千円)	工事箇所・内容(金額(千円))
2015・10	3,402	本館棟自動火災報知設備(感知器)取替工事
2015・10	1,332	本館 UGS更新工事
2015・12	11,556	ハロゲン化物消火設備ハロンボンベ取替工事
2015・11～2016・1	1,366	本館 空調機冷温水コイル及び温水コイル交換工事

(基本協定において県が負担することとしている修繕費等： 1,000千円以上)

[ 参考：資本的な収入及び支出等の状況 ]

	金額(千円)	内容(金額(千円))
収入		
支出		
積立		

## 8. 苦情・要望等

分野	報告件数	概要	対応状況
施設・設備	アンケート 1 件	(柳田國男開催時の展示室内ビデオについて)もうすこし音量を大きくしてほしい	入館状況により、音量を調整
職員対応	アンケート 1 件	65歳以上の割引料金について証明書等の提示を求められるのが不快	お願いの際、より丁寧な応接をするよう受付係員と確認
事業内容	アンケート 2 件	近代詩句に関する企画があったら是非観覧したい/戦後の詩人(田村隆一、北村太郎、etc)も期待	平成28年度、企画展として鮎川信夫展を開催
その他	アンケート 5 件	説明の文字を大きくしてほしい	会場キャプションについては、文字を大きくするとスペースの問題(全体文字数の減少)が生じる為、字体のみを視認性の高いものに変更
	アンケート 7 件	また文豪ストレイドックスとコラボレーションして欲しい	平成28年度、文豪ストレイドックススタンプラリーに参加

※指定管理者に起因するものを記載。その他、苦情・要望への対応を行ったものを記載。

## 9. 事故・不祥事等

発生日	事故等の概要	原因・問題点	①指定管理者の対応状況(再発防止策・業務改善策等) ②県の対応状況(随時モニタリング・改善勧告の実施等) ③責任の所在及び現在の状況
2015年12月4日	23:43の火災警報誤発報により、消防隊出動(夜間の為、即時通報となった)。	防災盤の劣化	①交換用の基盤は製造後相当期間が経過し入手困難のため、12月10日、機械警備への火災警報通報ラインを、比較的健全と思われる箇所からとるように回路変更。1月18日、メーカーによる劣化診断を実施。 ②計画修繕工事で優先的に実施できるよう依頼している。 ③応急処置を行って以来誤報はないが、交換部品が入手不可能なため、故障したら火災の感知ができなくなってしまう。

※随時モニタリングを実施した場合は必ずその内容を記載。

※過去に発生したもので、新たな対応等を実施した場合には、その内容を記載。

※なお、大きな事故・不祥事に関して改善勧告を行わなかった場合は、その理由を併せて記載。

## 10. 労働環境の確保に係る取組状況

確認項目	指摘事項の有無	備考
法令に基づく手続き	無	
職員の配置体制	無	
労働時間	無	
職場環境	無	

※指摘事項は、県による監査(包括外部監査含む)又は労働基準監督署によるものとし、有とした場合は備考欄に概要を記載。